

高層風自動計算記録装置



写真1 高層風自動計算記録装置

本装置は、高層風の観測に用いられるレーダー方式の観測装置（写真4）から必要なデータが入って来ると、極めて迅速に計算が行われ、自記紙上に風向、風速および高度を記録するようになっている（写真1, 2）。

現在この装置は、館野高層气象台において試験使用され、若干の改良が進められている。近い将来この方式が完成されて、ルーチーンの高層観測に使用されるようになると、現在観測終了後約1時間要している測風計算が瞬間的に行われるので資料の速達その他観測能率の向上に大いに役立つであろう。

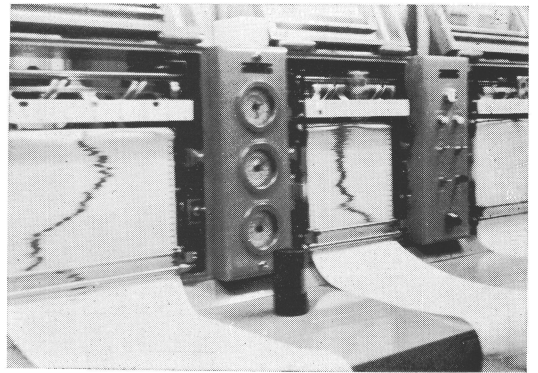


写真2 同上、（左風速、中央風向、右高度）

（写真と文、本庁高層課 鈴木 茂）

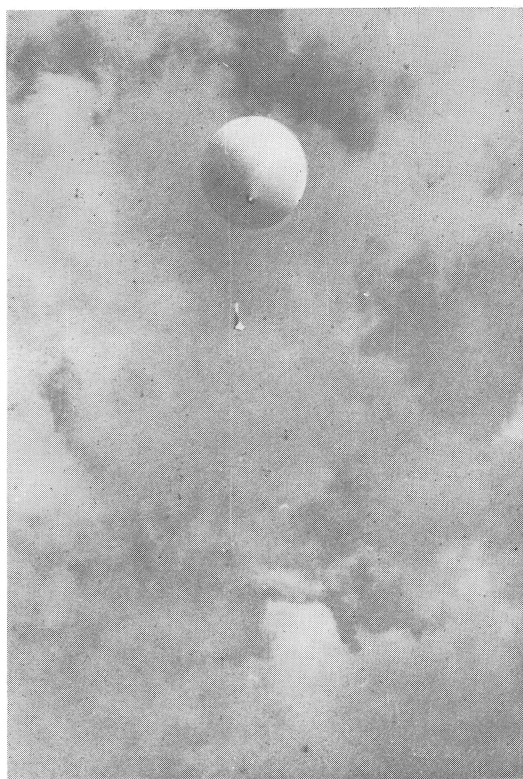


写真3 飛揚した気球

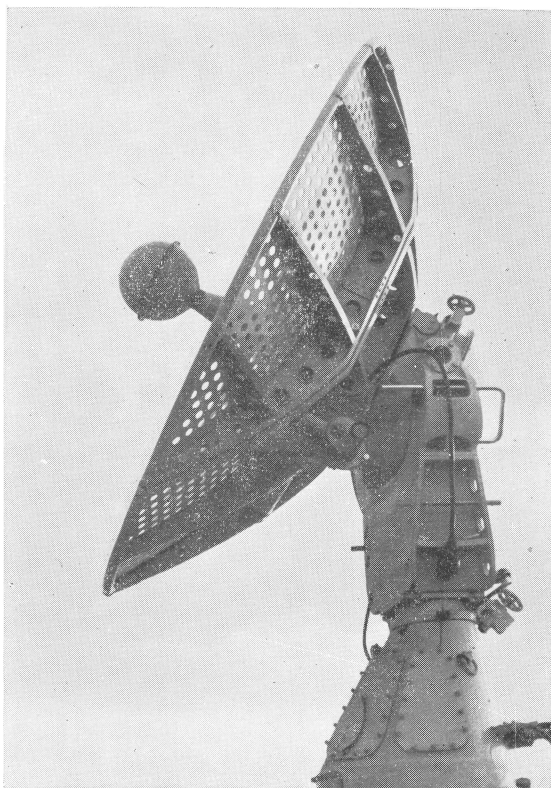


写真4 エコーレーウイン観測装置 (空中線部)

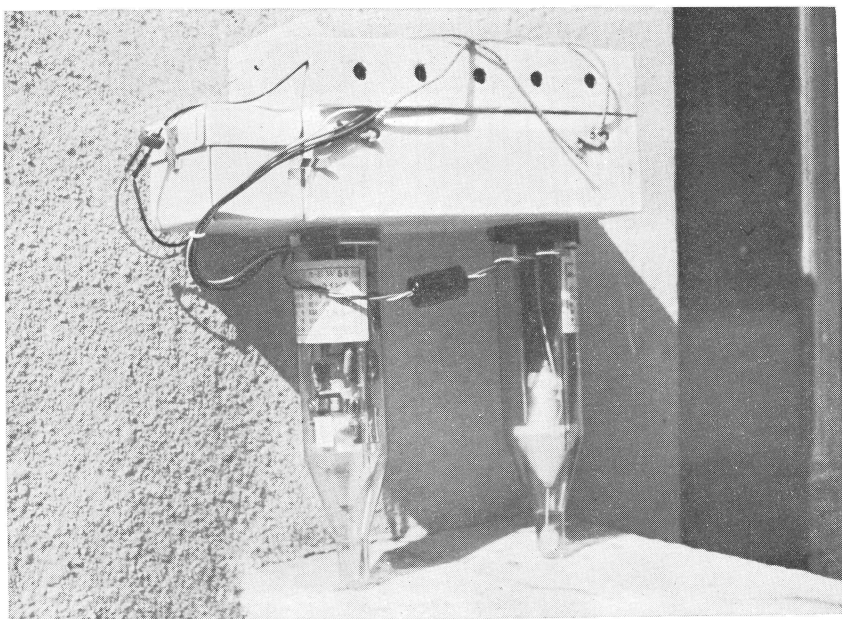


写真5 JMA-EW 58型 エコーレーウイン